

ITによる価値提供で未来社会を実現するソリューションを提供する

NECの「考え方」をオンライン授業で伝え、

生徒に、誰一人取り残さない未来社会の創造を考えるきっかけを提供します。

プログラム構成

プログラムは、以下のように構成されています。

本ティーチャーズガイドを参照し、先生方に、**事前・事後授業を実施**していただきます。

事前授業（2コマ）

「できたらすごい」アイデアを考える

- NECからのミッション映像を視聴する。
- NECの事例動画とVPCシートを参考に、自分たちの問題解決のアイデアをVPCシートを活用して考える。

オンライン授業(50分～)

「できたらすごい」アイデアを改善する

NEC社員とのブレストMTG

- NEC社員の事例解説から、課題解決のポイントとITの具体的な活用を知る。
- 自分たちのアイデアを発表し、ITの活用を検討するブレストをする。

事後授業(2コマ～)

「できたらすごい」未来を描く

- オンライン授業でのブレストをいかし、アイデアを改善する。
- プログラムをふりかえり自分が実現したい「できたらすごい」未来を描く。

事前授業（50分×2コマ）

NECの課題解決事例について、映像とVPCシートを2テーマ準備しました。NECの事例を参考に、VPCシートを活用した考え方について理解を深めさせてください。

その上で、解決したい問題や、理想の実現に向けて自分たちなりに、VPCを活用して考えさせてください。
オンライン授業では、その改善に向けてNEC社員とブレストをします。

●事前授業の準備

- プログラムサイト**にアクセスの上、**先生用ページ**教材ダウンロードから「ティーチャーズガイド」「VPCシート」をダウンロードしてご準備ください。
- アイデアはグループごとに考えます。**グループの編成、各グループリーダーの選出**をお願いします。
※詳細は事務局よりご連絡します。

●事前授業の流れ

①**プログラムサイト**生徒用ページから、**NECからのミッション、VPCシートを学ぶ（映像）**を視聴させる。

②**プログラムサイト**生徒用ページから、**NECの事例（映像とVPCシート）**を確認させる。

事例1 地域活性化～顔認証を活用したおもてなし

- 顔認証とAIをくみあわせて究極のおもてなしを実現。
- 顔認証で決済、入室・入場AIを組み合わせ、ウェルカムメッセージ、待ち時間や観光・施設混雑状況を表示。
- 観光地としての魅力を高め地域の活性化につなげた。

事例2 農業の生産性向上～AIで収穫量を最大化！

- IoTを活用したデータ収集と、それに基づくAI分析によって、収穫量を最大化。
- ドローン・センサーで気象・土壤データを収集、状況を可視化。
- 水・肥料・農薬などの使用、収穫量・収穫適期予測。

③**自分たちで課題を設定**し、VPCシートを活用して、自分たちなりの「できたらすごい」アイデアを考える。

●事前授業 学習指導案

「できたらすごい」アイデアを考える

<ねらい>

- VPCシートを使用し、課題を解決し、自分たちが実現したい「できたらすごい」アイデアを考える。

1コマ目

導入
10分

1. NECからのミッションを確認する。

- NECからのミッション（映像）**を視聴させ、「できたらすごいをみんなで創る」=Future Creationに挑戦することを確認する。
- VPCシートを学ぶ（映像）**を視聴させ、VPCシート活用して考えること、VPCシートの基本的な使い方を確認する。

展開①
40分

2. 「できたらすごい」の考え方を理解する。

- NECの事例分析を通して、「できたらすごい」を考える視点を得る。
- 全体で1つの事例映像を視聴し、「どんなできたらすごい」を実現しているか発言させる。事例のVPCシートで、「したいこと」と「アイデア（製品・サービス）」の関係を確認する。
- ＜グループ＞自分たちが考える課題を設定し、VPCシートを作成する。

2コマ目

展開②
30分

3. 「できたらすごい」アイデアを考える。（グループ）

- 1コマ目に続き、VPCシートを活用して、自分たちなりのアイデアを考える。

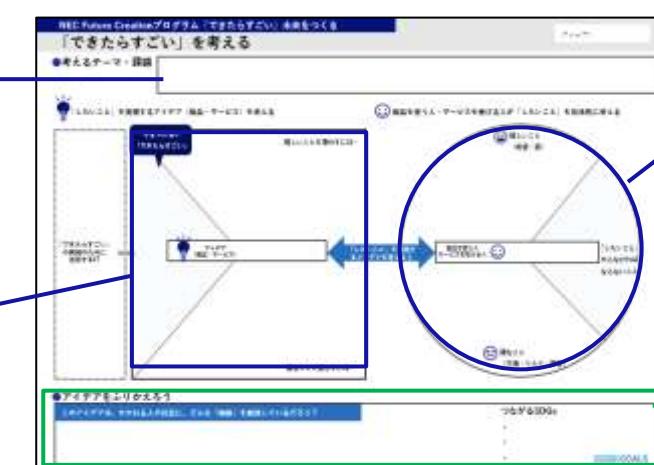
共有
20分

4. 「できたらすごい」アイデアを共有する。

- 全体で、それぞれのグループのアイデアを共有する。
- オンライン授業では、NEC社員から実際の課題解決で大切にしていることを聞き、自分のアイデアを高めるためにブレストをすることを伝える。
- オンライン授業でのNEC社員とのブレストに向け、アイデアの更新など準備をさせる。
- 各グループに、オンライン授業で、NECから直接詳しく聞いて参考にしたいのは、2つの事例のうちどれか希望を聞き、調整を行う。

【VPCシートのポイント】詳細は、**VPCシートを学ぶ（動画）**をご確認ください。

①考える課題を決める。



②「製品を使う人・サービスを受ける人」の「したいこと」「嬉しいこと」「嫌なこと」を考える。

③「嬉しいことを増やすし、嫌なことを減らす」ためにはどうしたらいいか考え、それを実現する「アイデア（製品・サービス）」を考える。

④事後授業
考えたアイデアが関わる人・地域や社会に、どのような価値を与られるのか、どのSDGsにつながるか考え、アイデアを評価する。

オンライン授業（50分）

最初に講師が、NECの実社会の課題解決事例についてVPCシートを基に説明します。

その後、生徒から、自分たちのグループの考えを発表し、NECの強みであるITを活用することで、さらにアイデアをよりよくすることができないか、NEC講師とブレストをします。

●オンライン授業の準備

①ブースごとのグループの割り振りをお願いします

- ・当日はグループごとにオンライン授業を行います。（下記「オンライン授業実施イメージ」参照）
- ・サイトに掲載されている2つの事例について、NEC社員が説明しますが、ブースによって聞ける事例が異なります。グループの希望に合わせて割り振りをお願いします。

※詳細は事務局よりご連絡します。

②生徒用・先生用 当日資料をご準備・ご確認ください

- ・[プログラムサイト](#)から、先生用、生徒用の当日資料をダウンロードし、内容をご確認の上、ビデオ会議アプリケーションの環境や発表準備などを行ってください。
 - 先生用資料 [先生用ページ>教材ダウンロード>オンライン授業 当日資料先生用（PDF）](#)
 - 生徒用資料 [生徒用ページ>アイデアミーティング 当日資料生徒用（PDF）](#)

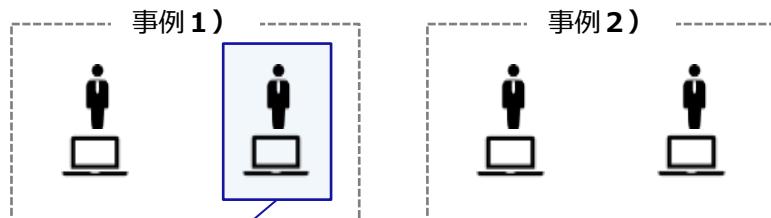
●オンライン授業実施イメージ

オンライン授業は、ビデオ会議アプリケーションを使って、NEC講師と接続します。

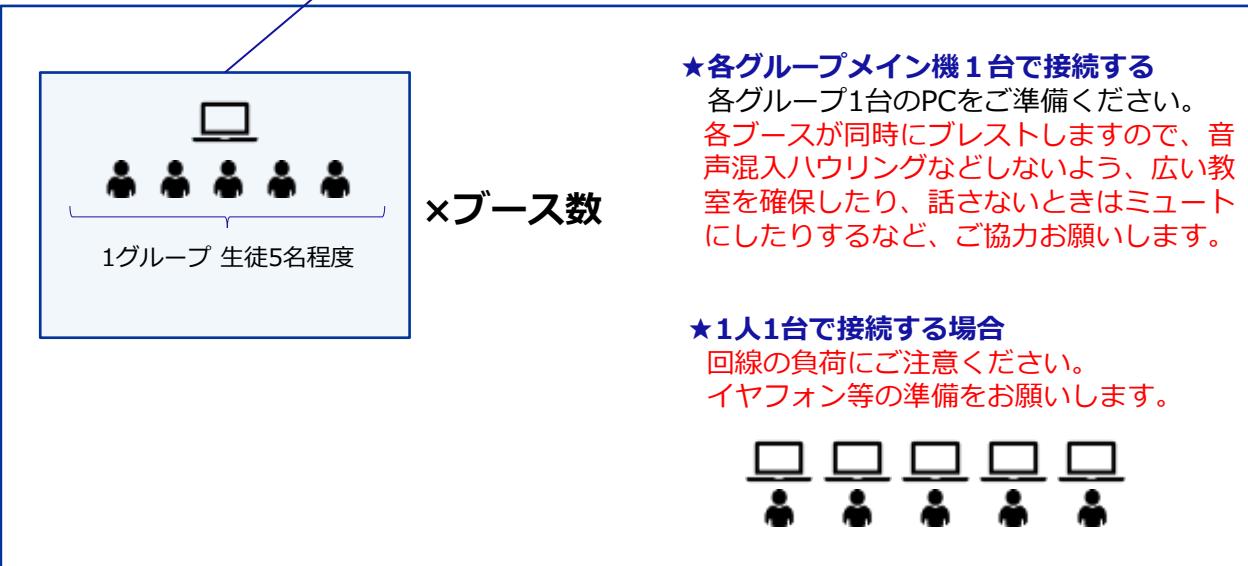
※下記は、4ブース開催（各事例2つずつのブース開催）の場合の例です。

ブース数、事例のブースの割り振りは、各実施回によって異なりますのでご注意ください。

NEC側 各ブースにNEC講師が1名以上あります。



学校側 グループごとにブースに入れます。



●オンライン授業

①NECの事例紹介

②生徒のアイデアの発表+改善ブレスト

「できたらすごい」アイデアを改善する

くねらい

- ・NEC講師の事例説明を聞き、「課題解決のためにどのように価値をとらえたのか」、また、「ITが未来を拓くこと」を理解する。
- ・ブレストを通してITの活用の可能性をとらえ、自分たちのアイデア改善のヒントを得る。

導入
5分

①
13分

②
25分

まとめ
7分

1. オンライン交流のねらいを確認する。

- ・オンライン交流の流れを確認する。講師、生徒双方が自己紹介。

2. NECの事例紹介

「できたらすごい」を支えるアイデアの視点、ITの活用について理解する。

- ・NECの事例分析の解説を通して、「できたらすごい」アイデアを創るために大切な視点、IT活用の目的とポイントを理解する。

※双向コミュニケーションのサポートをお願いいたします。

3. 生徒のアイデアの発表+改善ブレスト

NEC社員と一緒に、「できたらすごい」アイデアを改善するITを考える。

- ・どんな目的でどのようにITを活用したら、アイデアをよりよくすることができるか、NEC社員と一緒にブレストする。

※生徒発表のサポートをお願いいたします。

4.NECが考える「できたらすごい未来」を聞き、未来を描く意欲を高める。

- ・NEC社員が考える「できたらすごい未来」を聞く。
- ・「できたらすごい未来」を考えていくことは自分たち自身であることを受け止める。

事後授業（50分×2～）

「できたらすごい未来」を描こう

くねらい

- ・オンライン授業でのブレストを踏まえてアイデアを改善したり、NEC社員の描く未来を受け、自分なりに実現したい未来を描き、表現したりする。

導入

1コマ目
展開①

2コマ目
展開②

ふりかえり

1. 事後授業の流れを確認する。

- ・オンライン授業をふりかえり、ブレストでどんなことを得たか発表させ、共有する。それをいかし、自分たちのアイデアを改善することを伝える。

2. 「できたらすごい」を改善する。

- ・自分たちのアイデアに、どのようにITを入れるか考える。
- ・考えたアイデアが関わる人・地域や社会に、どのような価値を与えられるのか、どのSDGsにつながるか考え、アイデアを評価する。

3. 「できたらすごい未来」を描く。

- ・個人でわたりが描く「できたらすごい未来」をつくり、発表する。
 - ①プログラムを通して興味を持ったこと、学んだことをふりかえり、自分がこれから関わりたい、貢献したい「できたらすごい未来」を考え、スライドや文章等で簡潔に表現する。
 - ②グループやクラスで共有する。

4. プログラムをふりかえる。

- ・プログラムをふりかえり、身近な問題や社会課題を解決するために、自分はどんなことを大切にしていきたいと考えるようになったかをふりかえる。